

令和3年度の取り組み計画に関する 意見交換資料

1. これまでの経緯（荒川流域エコネット地域づくりアクションプランについて）
 - （1）荒川流域エコネット地域づくりアクションプランの策定
 - （2）アクションプランの目指すもの
 - （3）アクションプランの内容
2. 本年度の取り組み計画（案）
 - （1）プラン①「合同生きもの調査の実施」に関する本年度活動計画（案）
 - （2）プラン②「ゴミ・外来種問題への対応」に関する本年度活動計画（案）
 - （3）プラン④「各種広報の展開」に関する本年度活動計画（案）
 - （4）プラン⑤「エコツアーの推進支援」に関する本年度活動計画（案）
 - （5）プラン③「環境学習・観察会の推進支援」に関する本年度活動計画（案）
 - （6）プラン⑥「関係者間のネットワーク支援」に関する本年度活動計画（案）
3. 年間スケジュール等
 - ・ R3年度 年間スケジュール（案）

1. これまでの経緯（荒川流域エコネット地域づくりアクションプランについて）

（1）荒川流域エコネット地域づくりアクションプランの策定

H29年度 推進協議会の設立

荒川流域エコネット地域づくり推進協議会（以下「推進協議会」）の設立

※WG設置に向けた調整等

R2年度 WGの設立・アクションプランの策定

◎荒川流域エリア・ワーキングの設置（学識者、市民団体、自治体、河川管理者）

⇒計3回のワーキング会議においてアクションプランの内容・役割分担等について意見交換を行った。

◎第2回荒川流域エコネット地域づくり推進協議会を開催

⇒推進協議会においてアクションプランの内容を確認・承認。今後の取り組み推進に向けて期待することについて意見交換を行った。



◎第1回WG（2020.11.12）
◎第2回WG（2020.12.24）
◎第3回WG（2021.2.15）



◎第2回推進協議会（2021.3.4）
WEB会議形式にて
アクションプランを承認



(R3.3策定)
荒川流域エコネット地域づくり
アクションプラン

※WGを継続してアクションプランに関する具体的な取り組みを進める
(第2回推進協議会にてWG継続のための「WG規約・委員名簿」の改定を承認)

R3年度～ アクションプランの推進

◎WGを年2回程度（期初・期末）開催し、当年度・次年度のプラン実行計画案を相談しながら取り組みを推進し、結果を協議会へ報告する。

◎協議会では、WGからの報告事項を受け、アクションプランの進捗状況を確認する。また、必要に応じて、次年度以降の実行計画や体制の見直しなどを検討するなどし、取り組みの推進を図る。

WG（年1～2回程度開催を想定）

推進協議会（年1回程度）

期初WG（5～6月頃）

◎当年計画の相談
(内容、時期、役割分担等)

(対策・検討の実施)

(調整・相談は適宜)

期末WG（12～1月頃）

◎当年結果の確認
◎次年度計画の相談

(報告)

取り組み推進確認（2～3月頃）

◎当年結果、全体進捗の確認
◎次年度計画の承認（必要に応じ見直し）

※R4年度以降のWGは、当年結果の確認・次年度計画の相談を、期末にまとめて1回実施するなど、効率化を図っていくことも想定する。

荒川流域における「エコネット地域づくり」の目標達成

（2）アクションプランの目指すもの

1）取り組みの目標

◎コウノトリ、トキを指標とし、河川及び周辺地域における治水と調和した水辺環境の保全・再生によるエコロジカル・ネットワークの形成、また、それらを活用した地域振興・経済活性化を推進すること。

2）アクションプランの位置づけ

◎本取り組み目標達成に向けて、今後10年で、地域関係者がそれぞれ、あるいは連携・協力して行っていくとする取り組みについて、地域関係者による意見交換のうえとりまとめたもの。

◎協議会関係者が、可能な範囲で、連携・協力・調整するなどして推進していくことを想定する。

◎5年程度で取り組み状況を確認し、成果や課題を踏まえ、必要に応じて計画を見直ししながら、推進していく。

（3）アクションプランの内容

1）生物の生息環境保全に関するプラン

本年度 重点的に取り組む項目

| プラン | 目指すもの（10年後） | 取り組み内容（例） |
|---------------------------|---|--|
| (プラン①) 合同生きもの調査の実施 | ◎エリア内の環境データが蓄積され、各種取り組みの検討・実施に役立っていること。 ◎また、調査の実施を通じ、取り組み認知度が向上（理解者・賛同者の増加）していること。 | ◎関係者各自で実施している水辺の調査を、連携・協力（相互参加や技術交流等）により盛り上げます。 ◎関東エコネットで公表されているコウノトリ採餌量調査の手引きを活用するなどし、各地域の河川・農地等における統一した手法による調査実施を支援します（調査体験会の運営補助や機材の貸出し等）。 |
| (プラン②) ゴミ・外来種問題への対応 | ◎エリア内において、環境美化活動とともに、外来種駆除活動が実施（実施回数・場所の増加）されるようになること。 | ◎関係者各自で実施している清掃活動（プラスチックごみ対策など含め）や外来種駆除対策を、連携・協力（相互参加や技術交流等）により盛り上げます。 ◎清掃時等にも活用できる外来種駆除の手引きを作成・配布するなどし、各地域の河川・農地における外来種対策を支援します。 |
| (プラン③) 環境学習・観察会の推進支援 | ◎エリア内において、環境学習・自然観察会が、いまより広く・数多く実施され、地域の学習機会が増えていること。 ◎また、それにより取り組み認知度が向上（理解者・賛同者の増加）していること。 | ◎関係者各自で実施している環境学習会や自然観察会を、連携・協力（相互参加や技術交流等）により盛り上げます。 ◎本プランで挙げた指標種・シンボル種の学習・観察会の実施を支援（開催の運営補助やテキストや機材の貸出し等）します。 |
| (ベースとなる取り組み) これまでの活動継続 | 協議会関係者が、河川や農地、里山林、公園等でこれまでに実施してきた各種取り組みを、それぞれ、引き続き推進する。 | |

2）地域振興・経済活性化に関するプラン

| プラン | 目指すもの（10年後） | 取り組み内容（例） |
|---------------------------|---|--|
| (プラン④) 各種広報の展開 | ◎エリア内において、取り組み認知度が向上し、荒川流域エコネット地域づくりへの新たな理解者・賛同者・参加者が増えていること。 | ◎関係者各自で実施している環境関連の催事や拠点等を、連携・協力（相互参加や技術交流、エリア共通カレンダーの整理等）により盛り上げます。 ◎荒川流域エコネット地域づくりの取り組みや、地域の活動・魅力に関する広報を推進（ロゴマークやPR資料の検討・作成、それらを活用した行事出展等）します。 |
| (プラン⑤) エコツアーの推進支援 | ◎エリア内において、自然環境を活用した地域観光が実施されていること（新たな集客要素の提供による地域活性化への貢献）。 | ◎関係者各自で実施している観光振興の対策を、自然の恵みを活用して支援します。 (例：自然観察スポット、特産品（コウノトリのエサ資源にもなるドジョウ等）、サイクリング・ウォーキングマップ等の関連情報の収集・整理・発信、観光スポットの生態的な価値に関する情報提供、自治体同士の連携によるスタンプラリー、森林セラピー等) |
| (プラン⑥) 関係者間のネットワーク支援 | ◎エリア内において、自然環境・地域振興に取り組む地域関係者間の新たな連携・交流が図られ、各自の取り組み発展に寄与していること。 | ◎さまざまな場所・機会において、個人や市民団体、企業、自治体等の地域関係者間の連携促進を図ります。 (例：流域情報の収集・整理・発信、交流会・発表会や人材紹介による地域関係者同士の連携・交流の促進、情報共有のためのSNS活用等) |
| (ベースとなる取り組み) これまでの活動継続 | 協議会関係者がこれまでに実施してきた、環境に配慮した地域振興に関する各種取り組み（観光・商業・地域連携等）を、それぞれ、引き続き推進する。 | |

2. 本年度の取り組み計画（案）－生物の生息場環境保全に関するプラン

(1) 「合同生きもの調査の実施」に関する本年度活動計画（案）

プラン①



1) 目指すもの（10年後）

- ◎エリア内の環境データが蓄積され、各種取り組みの検討・実施に役立っていること。
- ◎また、調査の実施を通じ、取り組み認知度が向上（理解者・賛同者の増加）していること。

2) R3年度 取り組み計画（案）

①取り組み内容

- A) 協議会関係者による生物調査に関する情報収集（ニーズに合わせて情報共有）
- B) 水田調査体験会の開催（およびその推進に関する調整・検討・広報等）

A) 協議会関係者による生物調査に関する情報収集

- WG関係者を対象に、生物調査に関する情報提供をお願いし、エリア内における生物調査の実施状況を把握する（自治体情報収集済み）。
- 情報提供者のニーズ・都合等に合わせて、参加者募集や結果広報などの情報共有（WG関係者への事務局を介した情報配信）を行う。
- 事務局で、協働による取り組み推進につなげるための検討を行う（相互参加だけでなく、機材や資料・知見の共有などを含め、地域関係者のメリットにつながることを想定する。）

B) 水田調査体験会の開催

- 関東エコネットで公表されているコウノトリ採餌量調査の手引きを参考にした水田調査体験会を実施する。また、その結果広報を行い、取り組みのPRを図る。

【場 所】 鴻巣市吹上地区（荒川流域ネットワーク川島委員、および鴻巣市のご協力による）

【日 時】 7月20日（火）9:30開会～12:00頃解散 ※少雨実施・荒天中止

【参加者】 本推進協議会・WG委員関係者のみ（開催案内書は別紙として委員配付）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止（および熱中症予防）に配慮し、本年度は推進協議会・WG関係者のみで実施し、次年度以降、参加者を増やす方法（場所・対象者・募集方法等）について検討する。

【広 報】 開催後に結果広報を実施

※開催結果はニュースレターにとりまとめるなどし、情報共有（推進協議会・WG関係者へお送り、各団体・自治体での配布・HP掲載の周知を依頼する）を図る。

- また、次年度以降の本取り組み（水田～河川周辺のコウノトリ調査）の推進検討の参考にするため、事務局にて、上記A)の情報を踏まえ、地域関係者による米作り体験や水田調査等を視察している（鴻巣市、北本市）。

■水田調査体験会 行程（2021.7.20）

| 項目 | 時刻 | 内容 |
|---------|-------------|--|
| 集合 | 09:00～09:30 | ●受付 |
| ①施設見学 | 09:30～09:45 | ●コウノトリ飼育施設について《鴻巣市》 ●コウノトリについて《高木委員》 |
| 移動 | 09:30～09:45 | 調査水田へ移動 |
| ②水田調査体験 | 9:45～10:15 | ●環境保全型農業等の取り組みご紹介《川島委員》 ●水田・水路の生物採捕作業、水生生物観察《事務局》 |
| 移動 | 10:15～10:30 | 荒川現地へ移動 |
| ③現地見学 | 10:30～10:45 | ●荒川大間地区の湿地づくりご紹介《荒川上流河川事務所》 |
| ④河川調査体験 | 10:45～11:00 | ●河川の魚類観察（連続性指標種等）《事務局》 |
| 移動 | 11:00～11:30 | 解散場所（集合場所に同じ）へ移動 |
| 解散 | 11:30頃 | ●閉会（あいさつ、アンケート記入お願い） |

②年間スケジュール

| 時期 | 会議・行事 | 内容 |
|-------|--------------------|------------------------|
| 5～6月 | 各団体・市町における水田周辺活動 | 各活動内容の把握（事務局視察）※実施済み |
| 7月2日 | R3第1回荒川流域エリア・ワーキング | 取り組み計画の相談 |
| 7月20日 | 水田調査体験会（推進協議会関係者） | 環境保全型水田の視察や調査体験等 |
| 8～9月 | 結果広報 | 開催結果をニュースレター等にまとめ共有 |
| 12月頃 | R3第2回荒川流域エリア・ワーキング | 本年度結果の報告、次年度計画に関する意見交換 |
| 2～3月頃 | 第3回推進協議会 | 本年度結果の報告、次年度計画の審議 |

③本WGで意見交換したいこと

- A) 生物調査に関する情報提供のお願い（自治体情報収集済み）
- B) 水田調査体験会への協力のお願（および開催内容への助言）
 - ・水田調査体験会（別紙として案内書を委員配付）へのご参加（各市の環境・農政関係など取り組みに関連する部局への声掛け含め）
 - ・開催後の広報協力（事務局から配信する結果広報資料等の掲示・配布・HP掲載等）
 - ・次年度以降の調査体験会への助言・アイデア（場所、参加対象、募集形式、実施内容等）
- C) その他、合同生きもの調査の推進に関する意見・アイデア等（本年度に限らず、合同で調査してみたい生物・場所・関係者、必要なデータ…等）

④感染症予防に関する配慮事項

- ・水田調査体験会は、参加者公募形式は見送り、協議会関係者のみで3密を避けて実施（野外活動）する。
 - ・開催当日は、参加者の記録（記帳お願い）のうえ、マスク着用・手指の消毒や野外でも一定間隔を空けて作業を行うなどの配慮を図る。
 - ・その他、情報収集や広報等は電話・メール・WEBツールを活用しながら実施する。
- ※傷害保険加入、ケガや熱中症予防対策は通常とおり行う。

3) R4年度以降の展開（イメージ素案）

- ◎本年度の情報収集結果を踏まえながら、生物調査に関する情報（開催案内・結果広報・生物データ等）の収集・整理・関係者共有・活用を進める。
- ◎水田～河川調査を地域関係者が広く実施できるよう、水田～河川の生物の豊かさ（およびその保全のための整備の必要性）について普及・啓発（体験会の継続実施等）を進める。



水田調査の実施イメージ（左から 水田内・水田畔・周辺水路）

（関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会・コウノトリの舞う地域づくり連絡協議会による手引きより引用）

2. 本年度の取り組み計画（案）－生物の生息環境保全に関するプラン



(2) 「ゴミ・外来種問題への対応」に関する本年度活動計画（案） プラン②

1) 目指すもの（10年後）

◎エリア内において、環境美化活動とともに、外来種駆除活動が実施（実施回数・場所の増加）されるようになること。

2) R3年度 取り組み計画（案）

①取り組み内容

- A) 協議会関係者による清掃活動・外来種駆除に関する情報収集
- B) ゴミ・外来種対策の連携実施に関する検討

A) 協議会関係者による清掃活動・外来種駆除に関する情報収集

- WG 関係者を対象に、清掃活動・外来種駆除に関する情報提供をお願いし、エリア内における活動状況（場所・時期・参加者・対象種・方法等）を把握する（自治体情報収集済み）。
- 上記の清掃活動のうち可能なものについては事務局でも参加し、外来種駆除との連携検討のための現状把握（参加者アンケート等）を行う。

■秋活動時のアンケート設問（素案）

- ◎清掃活動に参加されたきっかけは何ですか？
- ◎清掃活動で拾ったゴミのなかで特に多いと感じる種類は何ですか？（いくつでも）
⇒ビニール袋/弁当殻/ペットボトル/ビン/カン/紙類/マスク/その他
- ◎清掃活動時にあればいいと思うモノ・コト（道具・資料・口頭説明など）がありますか？
- ◎次のなかで清掃場所で見たことのある外来植物はありますか？（時期はいつでも）
⇒アレチウリ/オオキンケイギク/オオカワヂシャ/オオブタクサ/ボタンウキクサ…（写真・説明入り）

B) ゴミ・外来種対策の連携実施に関する検討

- 上記A) で把握した現状を踏まえ、ゴミ・外来種対策の推進を効率的に実施できる方策（以下事務局案）を検討するとともに、可能であれば一部試行（秋清掃時に資料配布する等）する。
⇒案1) 清掃時（現状各市町で実施されている春の地域清掃・秋の河川清掃等を想定）に、参加者に配布できる、ゴミ問題・外来種問題の啓発用チラシ（プラスチックごみ問題とは何か、プラごみの見分け方/外来種問題とは何か、外来種の見分け方・駆除方法…等）を作成する
⇒案2) いつでも、市民等へ配布できる特定外来生物オオキンケイギク駆除の呼びかけ用チラシ（どのような悪影響があるか、見分け方、見つけたらどうするか…等）を作成する



■ゴミ問題・外来種駆除啓発用の資料事例

（左：埼玉県水環境課ホームページ/右：環境省ホームページ 九州地方環境事務所作成資料）

②年間スケジュール

| 時期 | 会議・行事 | 内容 |
|--------|--------------------|------------------------|
| 5～6月 | 各市町における地域清掃 | 各活動内容の把握（情報収集）※実施済み |
| 7月2日 | R3第1回荒川流域エリア・ワーキング | 取り組み方針の相談 |
| 6～10月 | (事務局検討) | ゴミ・外来種対策の連携実施に関する検討 |
| 10～11月 | 各市町における地域清掃 | 各活動との連携試行（情報収集・資料案配付等） |
| 12月頃 | R3第2回荒川流域エリア・ワーキング | 本年度結果の報告、次年度計画に関する意見交換 |
| 2～3月頃 | 第3回推進協議会 | 本年度結果の報告、次年度計画の審議 |

③本WGで意見交換したいこと

- A) 清掃活動・外来種駆除に関する情報提供のお願い（自治体情報収集済み）
 - ・情報提供済み（自治体情報）以外の清掃・外来種駆除活動の予定がありましたら、中止されたものについても「実施場所・実施時期」を教えてください。
 - ・外来種について「困っている種・場所」があれば、できるだけ具体的に教えてください（オオキンケイギクの確認場所、植物に限らず困っている問題等）。
 - ・事務局参加可能な清掃・外来種駆除活動があれば連携調整（事務局の参加）にご協力下さい。
- B) ゴミ・外来種対策の連携実施に関する意見・アイデア等（本年度に限らず、対策すべき種や場所、連携することが効果的と思われる活動、あったら便利だと思う資料・資機材、講師等の人材紹介…等）

④感染症予防に関する配慮事項

- ・感染症拡散防止に配慮し、各市町の清掃活動（春期）は中止となっている。事務局では、これまでの現状把握は、インターネットを活用（各自治体へのメールでの情報提供依頼含め）した情報収集を行っている。

3) R4年度以降の展開（イメージ素案）

- ◎本年度の検討結果を踏まえ、次年度以降、具体の対策（清掃時における外来種問題の啓発や駆除作業等）を進める。
- ◎必要な情報の収集・整理（外来種の確認種・確認位置等の生物データ/清掃活動の実施状況等の活動データ）を進める。



■荒川上流（河川区域内）で確認されている特定外来生物（植物）
（平成30年度 河川水辺の国勢調査結果）



■他河川の事例
（利根運河アレチウリ除去活動）

2. 本年度の取り組み計画（案）－地域振興・経済活性化に関するプラン

(3) 「各種広報の展開」に関する本年度活動計画（案） プラン④

1) 目指すもの（10年後）

◎エリア内において、取り組み認知度が向上し、荒川流域エコネット地域づくりへの新たな理解者・賛同者・参加者が増えていること。

2) R3年度 取り組み計画（案）

①取り組み内容

- A) 各自治体・団体のイベント情報の収集・整理
- B) 本取り組みPR資料の作成
- C) 流域内外の環境イベントでのPR検討

A) 各自治体・団体のイベント情報の収集・整理

- 各自治体の関係者各自で実施している環境関連の催事や拠点等の情報を収集・整理し、事務局から各委員に送信、共有することで相互参加を促進する。
- 荒川流域エコネット地域づくりの取り組みや、地域の活動・魅力に関する広報を推進（ロゴマークやPR資料の検討・作成、それらを活用した行事出展等）する。
※その他：ツイッター、FaceBookなどのSNS活用、ニュースレター等

B) 本取り組みPR資料の作成

- 荒川流域エコネット地域づくりの取り組みや、地域の活動・魅力に関する広報を目的として、ロゴマークやポスター、パネル、動画などのPR資料を検討・作成し関係者間で共有する。
- ⇒PR資料媒体例：荒川流域エコネット推進協議会の活動概要を紹介するポスター、パンフレット、デジタルサイネージ用動画等

- 内容案：○推進協議会や各委員（自治体・団体）の見どころ・取り組み内容紹介
 ○推進協議会・アクションプランの概要、目標像（昨年度作成物の更新）
 ○コウノトリについて ○荒川流域で見られる生きもの その他



■PR資料（ポスター）イメージ
（推進協議会で令和2年度に作成した素案）



■PR資料（デジタルサイネージ）イメージ



C) 流域内外の環境イベントでのPR検討

●前項B) で作成したPR資料を活用し、流域内外で開催される環境関連イベントでPRする。

⇒各自治体での環境関連イベントで資料を展示することを想定する。なお、コロナ禍でのイベント実施が困難であることを考慮し、各自治体の公共施設等への展示も想定する。

②本WGで意見交換したいこと

- A) 環境関連催事・拠点に関する情報提供のお願い（自治体情報収集済み）
- B) PR資料に活用できるデータ提供のお願い（自治体情報収集済み）
・ロゴマーク・ポスター案への意見等：ロゴマークの最適案、及びロゴマーク・ポスターのデザインに関する改善点など事務局案へのご意見・ご要望をお聞かせ下さい。
- C) PR資料の展示に関する情報提供のお願い（自治体情報収集済み）

③年間スケジュール

| 月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------------------------|----|--------------------|---------------------------------|------------------------------|---|-------------|---------------|-----|---------------------------------------|----|----|
| A 各自治体・団体のイベント情報の収集・整理 | | | 水田調査体験会 (プラン①) | | | | | | | | |
| | | | 環境関連催事・拠点の情報収集、情報発信に関する調整（～7月中） | | 情報発信に関する検討 | | | | | | |
| C 流域内外の環境イベントでのPR検討 | | 自治体への情報確認、入手（～6月中） | | | | | | | | | |
| | | | PR資料に関する調整（5～6月中、または随時） | | 確認情報とりまとめPR資料の内容検討（7月） | | | | | | |
| | | | | | PR資料案の提示・意見照会（8月） | | | | | | |
| | | | | | | PR資料の修正（9月） | | | | | |
| | | | | | | | PR資料の活用（10月～） | | | | |
| | | | | R3第1回エリアワーキング（7月） 取組方針の相談 | | | | | | | |
| | | | | | R3第2回エリアワーキング（12月） 検討結果の報告、次年度計画に関する意見交換 | | | | | | |
| | | | | | | | | | R3第3回推進協議会（2～3月） 本年度結果の報告、次年度計画の審議 | | |

④感染症予防に関する配慮事項

- ・感染症拡散防止に配慮し、インターネットを活用（各自治体へのメールでの情報提供依頼含め）した情報収集を実施。
- ・PR等の情報発信についても対面を避けた形式を検討。

3) R4年度以降の展開（イメージ素案）

- ◎引き続き事務局での情報収集・整理を行う。
- ◎PR資料のさらなる種類展開及び資料を用いた各所でのPRを行う。

(5) 「環境学習・観察会の推進支援」に関する本年度活動計画（案）

1) 目指すもの（10年後）

- ◎エリア内において、環境学習・自然観察会が、いまより広く・数多く実施され、地域の学習機会が増えていること。
- ◎また、それにより取り組み認知度が向上（理解者・賛同者の増加）していること。



2) R3年度 取り組み計画（案）

①取り組み内容：情報収集と次年度以降の取り組み推進に向けた検討

- WG関係者を対象に、環境学習・観察会に関する情報提供をお願いし、エリア内における行事の実施状況を把握する（自治体情報収集済み）。
- 情報提供者のニーズ・都合等に合わせて、参加者募集や結果広報などの情報共有（WG関係者への事務局を介した情報配信）を行う。

②年間スケジュール

| 時期 | 会議・行事 | 内容 |
|-------|------------------|-------------------------|
| 7月2日 | 第1回荒川流域エリア・ワーキング | 取り組み計画の相談 |
| 随時 | 各団体・市町による環境学習会等 | 各団体・市町活動について事務局を介して情報共有 |
| 12月頃 | 第2回荒川流域エリア・ワーキング | 本年度結果の報告、次年度計画に関する意見交換 |
| 2～3月頃 | 第3回推進協議会 | 本年度結果の報告、次年度計画の審議 |

③本WGで意見交換したいこと

- A) 環境学習・自然観察会に関する情報提供のお願い（自治体情報収集済み）
- B) その他、今後の環境学習・観察会の推進支援に関する意見・アイデア等（本年度に限らず、効果的な学習会・観察会の企画内容、あると便利な支援用の資料や資機材、講師紹介などの人材支援…等）

④感染症予防に関する配慮事項（案）

- ・本年度は、感染症拡散予防に配慮し、現状、環境学習・観察会等の多くは開催中止されているところ。事務局では、インターネットを活用（各自治体へのメールでの情報提供依頼含め）した情報収集を行っている。

3) R4年度以降の展開（イメージ素案）

- ◎本年度WGにおける意見交換結果を踏まえ、環境学習・観察会の推進支援に必要な検討（および支援の実施）を進める。

- ◎講師の派遣や紹介（出前講座、専門家による講義…等）
- ◎活動用資機材の提供や貸出し（調査用のぼり旗や腕章、子ども用ライフジャケットや胴長、折り紙などのクラフト教材、生きもの解説入り下敷きやクリアファイル…等）
- ◎教材資料の提供や貸出し（生きもの見分け方資料の配布、調査方法の解説用動画の配信…等）
- ◎観察会等の行事カレンダーの配信（告知用Facebookページの運用、活動拠点でのカレンダー配布・掲示…等）

◎YouTubeを活用した学習支援（日橋委員より情報提供）

⇒東京ZoovieYoutubeチャンネル「かんさつのヒント：コウノトリの保全活動」

《<https://www.youtube.com/watch?v=uU5-Rn2BXSA>》

■ 学習会・観察会等への支援事例（インターネット検索結果等）

(6) 「関係者間のネットワーク支援」に関する本年度活動計画（案）

1) 目指すもの（10年後）

- ◎エリア内において、自然環境・地域振興に取り組む地域関係者間の新たな連携・交流が図られ、各自の取り組み発展に寄与していること。



2) R3年度 取り組み計画（案）

①取り組み内容：次年度以降の取り組み推進に向けた検討

- プラン①～⑤の結果を活用するなどし、次年度以降、地域関係者間の連携・交流を促進させる仕組みやしかけについて検討（WGにおける意見交換等）する。

■地域関係者の連携・交流のための仕組み・しかけの例（素案）

A) 地域関係者で共有できる情報プラットフォームに関する検討

- ◎プラン④でのニュースレターの発信検討やプラン⑤の流域共通マップに関連し、地域の関係者が使用し情報共有できるプラットフォームの整備に向けた検討を行う。
- ⇒例：委員各自がイベント情報や開催結果広報を投稿できる新規Facebookページの開設、各自で流域の魅力スポットをプロットできるGooglemap 等

B) 交流会や発表会の開催検討

- 新たなアクションプランの担い手の創出を目的として、主に若い人々を対象とした交流会や発表会の開催について検討を行う。
- ⇒例：地域の市民団体や小中高校生物部の発表機会の創出や顕彰、荒川流域エコネットに興味を持っていただいた人が増えてきた時点での現地視察会の実施

C) 人材の交流・紹介・育成に関する検討

- 新たなアクションプランの担い手の創出を目的として、各団体間の交流や人材の紹介に関する情報共有について検討を行う。
- ⇒例：イベント時の相互参加、自然観察会時の講師やスタッフの紹介、人材派遣・紹介サイトに関する情報共有など

②本WGで意見交換したいこと

- 地域関係者間の連携・交流に関する意見・アイデア（上記案への意見や、本年度に限らずあるとよいと思うツールや支援策等）

③感染症予防に関する配慮事項（案）

- ・インターネットを活用（各自治体へのメールでの情報提供依頼含め）した情報収集を実施。
- ・交流会や発表会の開催に向けて、オンライン会議システムを活用した方法の検討を行う。
- ・人材に関する情報共有方法についても、オンライン活用等対面を避けた形式を検討する。

3) R4年度以降の展開（イメージ素案）

- ◎本年度WGにおける意見交換結果を踏まえ、関係者間の連携・交流を促進するための検討（および支援の実施）を進める。

